

平成 30 年度 第 11 回 昭島市社会教育委員会議・要点録

開催日時／会 場 平成 31 年 2 月 14 日（木）午後 7 時 00 分～9 時 00 分 ムラリ
出席者 谷部議長、中村副議長、齋藤委員、長瀬委員、稲垣委員、濱田委員、
松本委員、二ノ宮リム委員、吉村委員
欠席者 佐伯委員
事務局 吉村社会教育係長、来住野社会教育主事

1 開 会

<配付資料>

資料 1 アンケートまとめ

・あきしま公民館だより No. 190

2 報 告

(1) 市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議について（資料 1）

議 長 想定していた数を超える多くの参加があり、その中には他部署の職員の参加も複数名見られ、大変有意義な会になったと思っている。

事務局 参加者数やアンケートのまとめについては、資料をご覧いただきたい。

(2) その他

事務局 東京都市町村社会教育委員連絡協議会より、「平成 33 年度 関東甲信越静社会教育研究大会（東京大会）開催・運営方法における意見聴取」があり、議長・副議長と相談し、開催および運営方法の提案について妥当であると回答した。

3 議 題

(1) 第 30 期社会教育委員のテーマについて

議 長 テーマの検討にあたり、先日 2 月 9 日に実施した「市民のニーズを活かす・つなげるあきしま会議」を振り返ってみたい。

委 員 会議が終わってからも、まだ話していたいという様子があちらこちらであった。

委 員 最初のアイスブレイクでは、必然的に知らない方と話すことになるもので、互いに遠慮が消えてよかった。ラウンドテーブルでは、保護司としてだけでなく地域の中でこれまで様々な役を担い、活動をしてこられたお話を聞いた。それらの活動を知ることができたのはよかったがご自身が抱える問題を捉えることはできなかった。車人形の活動は、ご自分たちで課題を把握しておられた。これまで、活動に関してすべて会の方々の手で行われてきており、これから外に向けて動き出されるのだと思う。拠点は青梅線の北側であるが、活動は南側で行われており、北側での活動も支援していきたい。

議 長 自分がファシリテーターとしてうまくやれていたかどうか気がなった。

委員 うまく進んでおり、よかったと思う。最初に先生から参加するにあたってのルール説明があり、みなさん積極的に質問などもされていた。

議長 様々な地域活動に対するご家族の理解も素晴らしいと思った。車人形の活動もこれから補助金などの活用でもって、課題をクリアできる可能性を持っている活動ではないかとの話が出た。今回のあきしま会議で、いろいろな角度から方向性が見えたのではないかな。

委員 ファシリテーターは初めてだったが、参加者に支えられた。劇団ファーストラインとPC・スマホ相談のボランティアの報告を聞いた。最初から話題がどんどん出る感じだった。第1ラウンドのときに、やりたいけどやれない理由を探してしまい、一歩手前で止まっている人に対し、どう背中を押してあげるかという話が出たが、第2ラウンドでも、活動に巻き込んでいくために、どう支援していくかについての話題が出た。一見違う方向性の活動が議論していく中でつながっていくのが不思議だった。それぞれの活動が大きいものであると感じた。子供たちがどんどん活動に参加していく仕組みがあると思う。PCの方は、ボランティアで、ご自身も勉強しながらここまでやれるのだということに驚いた。一緒にやってくれる仲間づくりに苦勞されているようだが、人のために動けるというのは素晴らしいと思う。運営についての意見だが、時間配分がわかりにくかったので、スクリーンに表示するとよいのではないかな。

委員 生涯学習サポーターの会まなぶんのあきしまカルタの取組みの話では、あきしまカルタがあそこまでできあがっているということを知らなかった人が多く、その魅力に皆さんかなり引き付けられて、うきうきしていた。取材に入られた新聞社の方もかなりカルタに関心を寄せていた。カルタ製作の資金について多く語られていた。クラウドファンディングなどの勉強会にも出るなどしたが、そのためにネットを管理する人・時間がないなどの課題があるそうだ。お金の調達ということだけでなく、カルタができたことに対してそのテーブルの方は喜んでおり、そういう人たちは他にも多いだろうと思う。スポンサーの話などもあったが、企業名を入れる事への躊躇などもあるようで、市民活動と企業の関わりについてもいろいろな考えがあると思った。カルタをツールとした学習の展開にも話が及び、カルタを使って昭島の名所めぐりや、違うバージョンのカルタを自分たちでつくることが、地域に対しての気持ちを育てる学びになる。カルタづくりそのものの価値についても話し合われた。あきしまカルタは、生涯学習サポーター養成講座の修了者や受講者が中心となって作ったそうだが、コアとなって活動している人が少ないという話もあった。関わられてきた方々は、昭島について理解を深めることができただろうし、そういうことができる人を増やすこともできるという話も出た。仲間が増えれば、様々な特技を持つ人も出てくるのではないかな。

委員 一番の問題点は、費用よりも継続して協力してくれる人がいないということだ。養成講座では、カルタづくりという具体的な目標を出し、それにみんなで向かうことをめざした。カルタづくりに関心はあるようだが、活動に継続して関わることにに対して、責任というより「できる範囲のこと」を求めているのだが、難しいと感じているようだ。

委員 活動者を増やして、その人たちに広報してもらうことも必要ではないかな。カルタの報

告者の方も、みなさんの話で元気をもらった、広報にも力を入れたいとも話されていた。

委員 コアになる人がいないという問題は、どの団体にもつきまとうことだと思う。

委員 ある役割を持ってもらえれば、協力者はいる。何を協力者にしてもらおうかを持っておくことも大事だ。

委員 カルタのことを知らなかった人も大勢いた。カルタそのものにはとても魅力があるので、その製作過程に巻き込まれたいと思う人は潜在的にたくさんいると思う。

委員 地域の中では、認知症や介護予防に関心が高い。カルタは認知症予防にもなるのではないかと思う。

委員 もうひとつアトリエ村絵の会について。この活動は55年間続いている。絵のスキルを伸ばすことだけでなく、外遊びやキャンプ、演劇などを通して、子供たちが自分で考えて取り組む力をつけることをめざしている。いろいろな子ども、0B、0G が出入りして地域の中で縦のつながりをつくっている場でもある。活動をどう継続していくかも含めて、学校だけではなく、地域の中にいろいろな居場所のあることの大切さ、子どもたちの自己決定力や自信を身につけていく場が地域の中にあることの大切さが話題になった。報告内容とは関係ないが、過去にこの活動について、「非営利ではないために市民活動ではない」と言われたことがあったそうだが、同じグループにいた職員から、市で主催したクラウドファンディングの講座が大盛況だった話を聞いた。市民活動でも資金は必要であり、そういった講座に市民の関心が集まるようになってきた今、私たちは営利・非営利の垣根はあいまいになっているということ、営利とは収益の分配であり、非営利は収入を人件費も含めて活動に還していくもので、市民活動の捉え方も時代とともに変わっているということも踏まえる必要がある。

委員 絵に限らず、その他の文化活動にも、子どもたちが思っていることを何でも話せる場所があるとよいと思った。この活動では、子どもたち自身が考えて行動し、その子たちが社会に出てからも活動に関わりがあるというので、その人たちにあきしま会議に来てもらって話を聞いてみるのもよいのではと思った。絵を通していい人間関係を築いている。そういう場の提供は、有料だとなかなかそういった場に行けない人もいるのかとも思うので、お金がかからなくてもできる場所が広がっていけばよいと思った。

委員 子どもの居場所であると同時に親へのサポートも行われている場である。

委員 私はボーイスカウトと、あのねの会について話を聞いた。まず、ボーイスカウトについてだが、今は昔と違って遊ぶものや習い事の種類も多く、なおかつ少子化もあって団員の確保が大変だと感じた。ボーイスカウトでは月に1度、団の活動のための会議があるそうだが、構成委員は、ボーイスカウトの経験をしてきた大人と、ボーイスカウトに入団した子どもの保護者である。そこに考え方等のギャップがあるようだ。ボーイスカウトの活動の目的は、良き社会人、世の中で役に立つ人を育てるためだそう。保護者として委員になった人がボーイスカウトに求めているものは、しつけなどだそう。しつけはそもそも家庭でやるものではないか。そこで生じるギャップが大きいと感じているそう。ボーイスカウトを支える団員は毎月この会議のほか、団員の会議、2回程度の活動があり、多くの時間を無償で割いている。

次に、あのねの会について、驚いたのは年間の活動費の補助が1万円だということだ。この会の目的は発達障害の子どもたちの居場所づくりだそう。メンバーはほとんど働いている人たちで、仕事のあと集まって、あいぽっくの4階で週2回実施している無償のボランティアだ。来ている子どもたちの中には、大家族であるために、あるいは、保護者の帰宅が遅いために、家に居場所がないというケースがあるようだ。学習支援と居場所づくりをわずか1万円で、ときにメンバーは自己負担もしておやつなども用意し、大変ではないかと思った。無償での奉仕に向かわせるのは何だろうか。今回報告のあったこの2つの会に共通しているのは、情熱だ。情熱を持った人がいないと、活動を続けることも広げることもできないのだと感じた。市民活動にはどれも存在する意味と情熱があり、なくしてはならない、必要とされてやっているのだとつくづく感じた。

委員 私のグループでは、将棋サロンの活動と老人クラブの話聞いた。将棋サロンは、もともと6つの会社の将棋クラブで集まって30年くらい活動していたそう。それぞれ定年などで会員が減りクラブが成立しなくなったため、それらを一つにまとめて3年前に会をつくったそう。現在親子からシニアまで参加している。活動自体は活発で、参加者も120人を超えたともいう。これを運営しているメンバーは4人くらいいるが、運営に携わるほとんどの仕事の担い手は代表でもある報告者である。報告者は、会を持続可能なものにするために引き継ぎのための資料なども作成し、そろそろ代表を譲りたいと考えているが、活動に協力してもらえても代表にはなってもらえないのだそう。

次に、老人クラブについてだが、報告された老人クラブは市内に53ある老人クラブのうちの一つだ。報告者はそこで事務局を務めている。そのクラブは現在65歳から96歳まで32名、平均年齢80歳の会員で構成されている。報告者の話では、事務局を担ってくれる人がいないとのことだ。その人は、全会員数のうち女性の割合が高く、活動の実働を支えているのは女性会員たちであり、その能力の高さも感じていたため、女性会員に事務局を担ってもらいたいと提案したところ、あっさり断られたそう。報告者ご自身はこの先も事務局を担うことをしたくないと感じている。グループの中からは、事務的な作業は別のそういったものを請け負うような団体があれば、サポートしてもらえるのではないかとの話が出て盛り上がった。結局、二つの報告に共通するのは、会を運営するための事務処理の負担だ。話が盛り上がった反面、本当に運営の部分を外に投げた良いのかとの疑問もあった。この団体は3つの地域で構成されていて、地域ごとの関係性の難しさもあるそう。老人クラブ自体は53あるが、昭島市の60歳以上の人口からすれば、2割程度の人しか入会していないのではないだろうか。入会しない理由は、例えば将棋サロンの場合は、将棋がやりたいから来るが、老人クラブの場合は、入会して何をするのか、何が楽しめるのかが分かりにくいからではないだろうか。老人クラブに入って町内の草取りや清掃を行うことは、楽しいことなのかを考えたとき、老人クラブの楽しさは何なのかが明確でないところに問題があるように感じた。

事務局 第4グループのファシリテーターを務めた。報告いただいた児童合唱団つばさは30年活動をされているそうだが、そのことを知らなかった。年長さんから大学生まで26

名おり、入会の際、条件として一定の年数が来たら役員になってもらうことを承知してもらっており、そのため役員決めについてもめることはないとのことだ。問題と感じていらっしゃることは、練習場所の確保だ。音楽ができる会場はどこも利用率が高く、以前は学校の厚意で小学校の音楽室を借りていたこともあったが、現在は使うことができないそうだ。合唱団員は多年代の交流ができ、よい人間関係が作られている。報告の中で印象的だったのは、新たな団員が欲しいので「お友達を誘ってきてね」と伝えた際、友達も大事だが「合唱団は自分のための大切な居場所、時間」だから、お友達を誘いたくないという声もあったそうだ。グループの中から今後も頑張ってもらいたいとの励ましの声が多かった。もうひとつのこどものサロンび〜の活動は、コアメンバーは4人で、代表の方の人間力に感心した。入れ代わり立ち代わり、代替わりもしながら30年続く活動をめざしているそうだ。このサロンは、長期休業中に同じ地域にある高齢者対象のサロンと一緒に活動をすることもあるそうだ。そのことについてグループのメンバーから世代交流ができていたことがとてもよいので、そういった取り組みも広げていきたいとの感想もあった。

このときのグループには車人形の会の方もおられ、車人形の活動への関心も高く、お話を聞くことができた。

委員 みなさんの話を聞いて、事務の補助的なサポートがあると助かる活動もあるのかと思った。そういった支援する活動をするグループをつなげるコーディネーターも必要だろう。ボーイスカウトなど組織として事務的なところもしっかりできているところもあれば、そうでないところもある。中には、団体だけではそこまで行き届かず、逆にそこに意識が向いてしまった時に、肝心の活動がおろそかになってしまわないように、サポートしてくれる活動があると助かるかもしれない。

委員 あきしま会議に参加された方は市内のごく一部の人なのであろうが、学校ではやりきれない部分に対し、子どもに関わるボランティアの方々がいらっしゃるということがわかった。活動をしている人どうしがつながっていれば、同じような活動でもよりその人に合いそうな活動を紹介することもできる。そのようなネットワークができていくと、困り感を抱えた人たちも助かるのではないかと思った。後継者育成や、運営への関わりについても課題だと感じた。自分が楽しんだりするのは大歓迎だが、役員はしたくないという意識に対し、どう楽しんで運営していただけるのかを考えなくてはと思った。

議長 今期のテーマについては、次回さらに協議することとしたい。今後の会議の日程等を確認して、本日の会議は終了する。

次回

3月18日(月)	午後7時より	市役所2階205会議室
4月18日(木)	午後7時より	昭和会館1階洋室